

2-6 教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識能力に関する情報

2-6-1 学部・学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

環太平洋大学は、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成するため、○ 教養科目、○ 専門基礎科目、○ コア科目、○ キャリア形成科目等から教育課程を編成している。教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容と位置付け、幅広く学問領域が学べるように設定している。専門科目及びコア科目は、学部・学科の特有の授業内容で構成しており、また、コア科目、キャリア形成科目では、実践的・体験的な学びができるように、カリキュラムを設定している。成績評価は、科目の特性を踏まえて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等を多面的に評価するため、受講態度、報告・発表、レポート課題、試験など多様な方法を組み合わせて総合的に評価を行う。

《体育学部 学部・学科の教育課程編成の方針》

体育学部では、大学のカリキュラム・ポリシーに従って、豊かな人間性、幅広い教養、基礎的学習能力、健康・スポーツ科学に関する専門的知識、運動技能、健康・スポーツの指導ができる実践力、キャリア形成に向けての総合的な能力を身に付けることを目的に、大きく下記の3つの科目区分に分けて、学科ごとに時代の要請に応じた体系的なカリキュラムを編成する。

○教養科目、○専門基礎科目、○コア科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育（専門基礎科目、コア科目）においては、スポーツや健康に関する専門知識と技能及びキャリアに関する多様な科目を履修し、講義、演習や実習、アクティブ・ラーニング、PBL、ICTの活用などにより効果的に学修を深める。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学習成果として、「卒業研究」や「課題レポート」、「教職実践演習」において全てのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

体育学部 体育学科

体育学科では、学部のカリキュラム・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

(1) グローバル・国際理解等に関する知識・理解

【学修内容】

体育・スポーツ現場の諸問題を解決する探求型授業を実施することにより、仮説立案から検証、考察という研究手法を身に付ける。科目としては、専門基礎科目内に国際スポーツ論・体育社会学・コーチング論を設置し、スポーツを通じた国際的平和の促進について理解する。

【学修方法】

海外の研究を踏まえた授業を展開し、問題解決的な学習やディスカッションを通して、スポーツを通じた国際的平和の促進について理解する。

【学修成果を評価方針】

試験やレポートの成果から、学修到達度によって評価する。

(2) 専門分野に関する知識・理解

【学修内容】

解剖生理学・生理学などの人体の基本的な知識を学び、発展として指導や探求に関する実践型学習を行うことにより、健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付ける。基幹科目としては、健康科学概論・運動器の解剖と機能Ⅰ・生理学において人体の基本的な知識を学び、実習科目や体育実技の科目を通して、実践的な技能を身に付ける。

【学修方法】

基本的な知識の習得には ICT を有効活用した講義とし、指導的なフィールドワークや専門的な知識獲得のためには PBL を用いた探求する授業を用いる。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験、研究発表によって評価する。

(3) 教養を深めるための幅広い知識・理解

【学修内容】

体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて学び、更に自らの経験や体験を通じて、共通点や相違点を探求することにより幅広く深い教養を身に付ける。基幹となる科目は、体育原理・体育史・運動学とし、コア科目に繋げていく。

【学修方法】

基本的な知識の習得には ICT を有効活用した講義とし、フィールドワークや PBL を用いた探求型授業を用いる。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート執筆及び定期試験、研究発表によって評価する。

(4) コミュニケーション能力等の汎用的技能

【学修内容】

現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、競技スポーツから生涯スポーツまでの様々な分野の実践を行っていくことで、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付ける。基幹科目としては、体育社会学・スポーツ経営学・体育行政学とし、コア科目区分「スポーツマネジメント」の科目に繋げていく。

【学修方法】

基本的な知識の習得には ICT を活用した講義とし、フィールドワークや PBL を用いた探求型授業を用いる。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験、研究発表によって評価する。

(5) 情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能

【学修内容】

科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題を解決する探求型授業を実施することにより、仮説立案から検証、考察という研究手法を身に付ける。基幹科目としては、スポーツバイオメカニクス・スポーツ栄養学・トレーニング論Ⅰを基本として、コア科目区分「ハイパフォーマンススポーツ」の科目へ繋げていく。

【学修方法】

各実習や問題解決的な学習や PBL 型の授業を通じて、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける。

【学修成果の評価方針】

論文作成や研究発表によって評価する。

(6) 自律や社会性等に関する態度・指向性

【学修内容】

体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付ける。基幹科目としては、専門基礎科目の体育心理学・コーチング論を基本として、コア科目区分「教員養成」「公務員」の科目へ繋げていく。

【学修方法】

アクティブ・ラーニングやディスカッションを行っていく。講義だけでなく運動実技においても実践していく。

【学修成果の評価方針】

授業中の意欲やレポート執筆、受講者のアンケートによって評価する。

(7) 生涯にわたり学び続ける態度・指向性

【学修内容】

体育会貢献やアスリートとの連携を通して、体育・スポーツに関する科学的知見の有効活用方法を身に付ける。基幹科目としては、スポーツアナリティクスⅠ・スポーツ栄養学実習・運動生理学実習・体力学実習を選択し学習していく。

【学修方法】

基本的な知識の習得には ICT を有効活用した講義とし、フィールドワークや PBL のような探求型授業を用いる。

【学修成果の評価方針】

授業中の意欲やレポート及び定期試験、研究発表によって評価する。

(8) 統合的な学習経験と創造的思考力

【学修内容】

修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける。基幹科目としては、コア科目区分「教育実践」「ゼミナール」の科目を通じて実践していく。

【学修方法】

方法は実習や問題解決的な学習を通じて身に付ける。

【学修成果の評価方針】

授業中の意欲や論文作成及び研究発表によって評価する。

体育学部 健康科学科

健康科学科では、学部のカリキュラム・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

(1) グローバル・国際理解等に関する知識・理解

【学習内容】

現代社会における国境を越えた多様な価値観を受容し、患者から求められる健康に関する知識や医療を理解し尊重できる能力を身に付けることにより、グローバルで国際的な理解を養う。

【学習方法】

講義を中心にアクティブ・ラーニング、PBL を通して幅広い様々なグローバルな視点を培う。

【学習成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験によって評価する。

(2) 専門分野に関する知識・理解

【学習内容】

専門基礎科目、専門科目を通し柔道整復師に必要な専門知識と実践能力を身に付けることにより、日々進歩する体育、医学分野に対応できる能力を養う。

【学習方法】

講義、アクティブ・ラーニング、PBL で医学における基礎知識、臨床応用知識を培う。

【学習成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験によって評価する。

(3) 教養を深めるための幅広い知識・理解

【学習内容】

幅広い国際的な教養と豊かな人間性を身に付けることにより、深い教養と学識を養う。

【学習方法】

講義、演習形式の授業を通して深い学びと幅広い知識を培う。

【学習成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験によって評価する。

(4) コミュニケーション能力等の汎用的技能

【学習内容】

多職種が連携したチーム医療や医療倫理、医療安全、患者と柔道整復師の関係など幅広い臨床の基本を身に付けることにより、様々な立場と専門性を理解し良好に職務を遂行できる能力を養う。

【学習方法】

講義、アクティブ・ラーニング、PBL でコミュニケーション能力を培う。

【学習成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験によって評価する。

(5) 情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能

【学習内容】

健康・医学的情報を適切に収集、分析し、的確に判断し科学的根拠に基づいた対処ができる能力を身に付けることにより、医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を養う。

【学習方法】

ICT 機の活用、アクティブ・ラーニング、PBL で問題発見・解決力を培う。

【学習成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験によって評価する。

(6) 自律や社会性等に関する態度・指向性

【学習内容】

高い倫理感のもと、プロフェッショナルな指導者としての責任を自覚し社会規範に則り行動する態度・指向性を養う。

【学習方法】

講義、アクティブ・ラーニング、PBL で、柔道整復学を中心として、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域と協調できるスキルを培う。

【学習成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験によって評価する。

(7) 生涯にわたり学び続ける態度・指向性

【学習内容】

進歩し続ける体育や医学・医療の質の向上に向け、生涯にわたり学び続ける態度・指向性を身に付けることにより、体育・医療人として最新の知見を涉猟し続ける生涯学習力を養う。

【学習方法】

アクティブ・ラーニング、PBL で生涯にわたり学び続ける能力を培う。

【学習成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験によって評価する。

(8) 統合的な学習経験と創造的思考力

【学習内容】

柔道整復師としてのプロフェッショナリズムおよび体育、医学・医療全般に必要な知識・技術・態度等の能力を身に付けることにより、新たな課題に対し主体的、創造的に取り組み解決できる能力を養う。

【学習方法】

ゼミナール形式を中心としつつ、アクティブ・ラーニングや PBL も取り入れ、問題発見・解決力を培う。

【学習成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び定期試験によって評価する。

《次世代教育学部 学部・学科の教育課程編成の方針》

次世代教育学部では、大学のカリキュラム・ポリシーに従って、豊かな人間性、幅広い教養、基礎的学習能力、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知識とそれらを活かす実践力、コミュニケーション能力、異文化理解力を身に付けることを目的に、大きく下記の3つの科目区分に分けて、学科ごとに時代の要請に応じた体系的なカリキュラムを構成する。

○ 教養科目、○ 専門基礎科目、○ コア科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育（専門基礎科目、コア科目）においては、教育的知識や技能に加えて、豊かな人間性やコミュニケーション能力を身に付けるために多様な科目を履修し、講義、演習や実習、アクティブ・ラーニング、PBL、ICTの活用などにより効果的に学修を深める。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学修成果として、「ゼミナールⅡ」「卒業研究」ですべてのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

次世代教育学部 こども発達学科

こども発達学科では、学部のカリキュラム・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

(1) グローバル・国際理解等に関する知識・理解

【学修内容】

「ニュージーランド保育」を基幹科目として、グローバルな保育の見方・考え方を学ぶ。

【学修方法】

学内での理論的な学修に加えて、ニュージーランド現地における保育実習を展開する。

【学修成果の評価方法】

ニュージーランド保育から日本の保育に示唆する事柄をレポート・プレゼンにまとめ発表したものをルーブリックによって評価する。

(2) 専門分野に関する知識・理解

【学修内容】

「発達心理学」「教育の思想と原理」「教育心理学」「保育内容『造形表現』指導法」「保育内容『音楽表現』指導法」「保育内容『身体表現』指導法」「子ども家庭福祉」を基幹科目として、5つの領域から多面的に子どもを理解できる科目群を展開する。

【学修方法】

専門分野は、知識を事実に知識、理論的知識、価値的知識に構造化した系統的な学修方法とする。

【学修成果の評価方法】

5つの領域の理論（概念的知識）を具体例を用いて活用できることをペーパーテスト、レポート、プレゼン等によって評価する。

(3) 教養を深めるための幅広い知識・理解

【学修内容】

「子どものこころ」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」などの子ども学系の科目によって、こどもに関する教養を深める。

【学修方法】

子どもの保育する実践を意識した演習を中心に学修する。

【学修成果の評価方法】

科学的な子ども理解について、ペーパーテスト、レポート、プレゼン等によって評価する。

(4) コミュニケーション能力等の汎用的技能

【学修内容】

「子ども家庭支援の心理学」「子どもの理解と援助」「子ども子育て教育相談」などにおいて実践的に学ぶ。

【学修方法】

支援場面を想定したロールプレイ、演習によって活動的に学修する。

【学修成果の評価方法】

演習授業におけるパフォーマンス評価によって評価する。

(5) 情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能

【学修内容】

「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）」「子どもとマルチメディア」などにおいて、情報技術を活用した問題解決的な学習を展開する。

【学修方法】

保育現場で求められる情報技術を実際にパフォーマンスする学修活動を展開する。

【学修成果の評価方法】

情報活用のスキルと問題解決のパフォーマンスをルーブリックによって評価する

(6) 自律や社会性等に関する態度・指向性

【学修内容】

「保育実習指導」「保育実習」「教育実習指導」「教育実習」を中心に社会人としての責任を実践的に学ぶ。

【学修方法】

保育・教育実習、実践活動等における社会的経験とそれをリフレクションする活動をセットで展開する。

【学修成果の評価方法】

実習中のパフォーマンスを実習先の担当者が社会人の視点から評価指標によって評価する。

(7) 生涯にわたり学び続ける態度・指向性

【学修内容】

「保育マネジメント演習Ⅰ」「保育マネジメント演習Ⅱ」「保育マネジメント演習Ⅲ」「保育マネジメント演習Ⅳ」によって、実践的にマネジメントを学ぶ。

【学修方法】

保育現場における運営・経営的なマネジメントを PBL によって学ぶ過程において、セルフマネジメント能力と生涯学習力を身に付ける。

【学修成果の評価方法】

実際に行うマネジメント活動を総合的に評価するとともに、メタ認知を活用した自己評価によって評価する。

(8) 統合的な学習経験と創造的思考力

【学修内容】

「保育・教職実践演習」を基幹科目に「幼児英語指導法」「幼児体育指導法」「幼児心理」というコース選択科目を準備し、専門性を高めていく。

【学修方法】

保育現場における実際の指導を経験するアクティブ・ラーニングを中心に展開する。

【学修成果の評価方法】

保育指導計画の作成及び実践の PDCA などによって評価する。

次世代教育学部 教育経営学科

教育経営学科では、学部のカリキュラム・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

(1) グローバル・国際理解等に関する知識・理解

【学修内容】

教養科目に位置づけられた英語関連科目によって、①グローバルな視点と知識、②多文化・異文化についての理解、③英語によるコミュニケーション能力を養う。

【学修方法】

英語関連科目とともに、長期・短期留学制度を整備し、体験的・活動的な学びを通して、学修する。

【学修成果の評価方針】授業中の英語でのコミュニケーションやレポート及び試験によって評価する。

(2) 専門分野に関する知識・理解

【学修内容】

専門基礎科目、コア科目の履修，とりわけ、「〇〇の理解」「教科教育法」によって、①教育学に関する専門的知識、②発達等の子ども理解、③的確な学習指導力、生徒指導力、学級経営力を修得させる。

【学修方法】

アクティブ・ラーニング、PBL、問題解決学習を位置づけ、専門的な知識と方法を、体験的・実践的に学修する。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び試験によって評価する。

(3) 教養を深めるための幅広い知識・理解

【学修内容】

「次世代教育学」「教育社会学」「ゼミナール」によって、こども理解のための感性、思考力・判断力・表現力・創造力等の非認知能力の修得を重点的に行う。

【学修方法】

生涯学習の見地から、教育現場における問題の発見、多面的・多角的な分析、解決方法の選択，調査・実験などの活動，考察や発表という一連の問題解決のプロセスを実践的に学ぶ科目を提供する。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び試験によって評価する。

(4) コミュニケーション能力等の汎用的技能

【学修内容】

全科目を通じて、周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーションマインド、コミュニケーションスキルを身に付ける。

【学修方法】

全ての授業でアクティブ・ラーニングを取り入れ、体験的にコミュニケーション能力を修得させる。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び試験によって評価する。

(5) 情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能

【学修内容】

コンピュータリテラシー、教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）教科教育法の履修によって、ICT 機器の活用法、デジタル教材、プログラミング的思考の内実（目的・目標・方法）についての基盤的な学修を実施する。

【学修方法】

実際に情報機器を活用しながら、ICT 機器の活用法、デジタル教材、プログラミング的思考の内実を理解する。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び試験によって評価する。

(6) 自律や社会性等に関する態度・指向性

【学修内容】

メンター制度の元での「基礎ゼミナールⅠⅡ」、「ゼミナールⅠⅡ」の履修によって、高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付ける。

【学修方法】

人生経験豊富な教員からの指導講話、対話しながら、さまざまな教師モデルや外部人材と出会いの機会を設定する。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び論文によって評価する。

(7) 生涯にわたり学び続ける態度・指向性

【学修内容】

「フレッシュマンセミナー」「キャリアディベロップメント」「基礎ゼミナールⅠⅡ」の履修によって、教職の魅力と重要性を感得させる。

【学修方法】

初年次の早い時期に学校現場を数多く体験しながら、教職の魅力と重要性を感得するような実習、体験的な学修を実施する。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポートによって評価する。

(8) 統合的な学習経験と創造的思考力**【学修内容】**

「ゼミナールⅠⅡ」「卒業研究」「教職実践演習」の履修によって、修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付ける。

【学修方法】

最終学年までに身に付けてきた知識・技能・態度を総合的に活用しながら、より専門的かつ実践的なディープラーニングを実施する。

【学修成果の評価方針】

講義中の質疑応答やレポート及び論文によって評価する。

《経済経営学部 学部・学科の教育課程編成の方針》

経済経営学部では、大学のカリキュラム・ポリシーに従って、豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身に付けることを目的に、大きく以下の4つの科目区分に分けて、学科ごとに時代の要請に応じた体系的にカリキュラムを構成する。

○ 教養科目、○ 専門基礎科目、○ コア科目、○ キャリア形成科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育（専門基礎科目、コア科目、キャリア形成科目）においては、経営的知識や技能に加えて、豊かな人間性や倫理観、課題提案力を身に付けるために多様な科目を履修し、講義、演習や実習、アクティブ・ラーニング、PBL、ICTの活用などにより効果的に学修を深める。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学修成果として、「ゼミナールⅡ」「卒業研究」ですべてのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

経済経営学部 現代経営学科

現代経営学科では、学部のカリキュラム・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

(1) グローバル・国際理解等に関する知識・理解**【学修内容】**

国際人としての自覚とアイデンティティの涵養に基づく実践力と生涯学習力を養成する。科目においては、コア科目内に「国際・経済領域」を設置し、グローバル経済における市場動向や国際関係を理解する。

【学修方法】

国際人としてグローバルに活躍できることを目指した授業を展開し、特に留学生と幅広くディスカッションを行い、また海外インターンシップなどからも学ぶ。

【学修成果の評価方針】

定期試験やレポートによって評価する。

(2) 専門分野に関する知識・理解**【学修内容】**

経営に対する総合的な学修経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を養成する。マネジメント、経営学、会計学、マーケティングなどの専門領域の科目を配し、現代のビジネス社会に必要な基礎知識や社会の仕組みに関して多面的な学修を行う。

【学修方法】

主に講義形式の授業によって、専門的に学修する。

【学修成果の評価方針】

定期試験やレポートによって評価する。

(3) 教養を深めるための幅広い知識・理解**【学修内容】**

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力を養成する。IPU ジェネリックスキルズ（アカデミックスキル科目）や英語等語学科目、人間・自然・社会の理解のための科目によって、大学生として必要な人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身に付ける。

【学修方法】

ディスカッションと双方向型授業を主体とした授業運営を行い、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力育成に重点を置いた指導を行う。

【学修成果の評価方針】

定期試験による学修到達度の客観的評価だけでなく、報告・発表、レポートなど多様な方法によって評価する。

(4) コミュニケーション能力等の汎用的技能

【学修内容】

基礎ゼミナールやプロジェクト・ゼロといった少人数でのディスカッション型科目を通じ、課題を見つける力、考え抜く力、コミュニケーション能力を養う。

【学修方法】

初年次から少人数制によるゼミナールをスタートしていくことで、主体的な学びを育成する。また、ディスカッションと双方向型授業を主体とした授業運営を行い、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する。

【学修成果の評価方針】

定期試験による学修到達度の客観的評価だけでなく、報告・発表、レポートなど多様な方法によって評価する。

(5) 情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能

【学修内容】

コンピュータリテラシー科目や数学・統計、社会調査士科目を通じ、実社会・経済を論理的・数量的に分析する力を身に付ける。

【学修方法】

講義形式だけでなく、実習・演習形式の講義によって学ぶ。また、ICTを活用してより実践的に学ぶ。

【学修成果の評価方針】

定期試験による学修到達度の客観的評価だけでなく、報告・発表、レポートなど多様な方法によって評価する。

(6) 自律や社会性等に関する態度・指向性

【学修内容】

自己と他者との関係や社会性について理解するとともに、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やチーム力を養う。「異文化コミュニケーション」「多文化環境論」など、教養科目、専門基礎科目、コア科目、キャリア形成科目のすべてにおいて異なった考え方、文化など多様性を受け入れる広い視野と許容力を育成する科目を配置し学修する。

【学修方法】

ディスカッションと双方向型授業を主体とした授業運営を行い、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する。

【学修成果の評価方針】

定期試験やレポートだけでなく、報告・発表、受講姿勢、グループワークへの貢献など、多様な方法によって評価する。

(7) 生涯にわたり学び続ける態度・指向性

【学修内容】

「SDGs 入門」「プロジェクト・ゼロ」「キャリアマネジメント」「公共経営セミナー」といった授業により生涯学習の素養を養う。また、課題を見つける力、考え抜く力、コミュニケーション能力を養い専門科目の主体的学びの育成をサポートする。

【学習方法】

問題解決的な学習を中心に、ディスカッションと双方向型授業も取り入れながら総合的に学ぶ。

【学習成果の評価方針】

定期試験やレポートだけでなく、報告・発表、受講姿勢、グループワークへの貢献など、多様な方法によって評価する。

(8) 統合的な学習経験と創造的思考力

【学修内容】

実習や特別講義・特別演習等の実学を通じて、職業倫理を備えた実践的職業人としての実務能力を身に付ける教育から学ぶ。

【学修方法】

問題解決的な学習と双方向型授業中心に学修し、アクティブ・ラーニング、PBL から実践的に総合的に学ぶ。

【学修成果の評価方針】

定期試験やレポートだけでなく、報告・発表、受講姿勢、グループワークへの貢献など、多様な方法によって評価する。

[2022年5月1日現在]